

## B-4 「経済活動と社会」

### (1) 科目の紹介

基本情報	平成 26 年度・教養教育・後期		曜日・校時	火 1 限	
モジュール名	現代経済と企業活動 I		科目名	経済活動と社会	
教員名 (所属)	藤田 渉 (経済学部)			教室	A-23
選択者数	66 名	2 年生の所属学部	多文化社会学部	教育学部	薬学部 水産学部
再履修数	2 名		( 3 5 名)	( 1 2 名)	( 9 名) ( 8 名)
<p>授業のねらい：現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察することにより、複眼的で幅広い視点を獲得することを目的とする。本モジュールの履修により、経済学の体系に沿って統一的に学ぶことが可能となる。</p>					
<p>アクティブラーニングに向けて工夫した点：          講義終了時に「講義の概要と感想や印象に残った事項」について小レポートを毎回提出。          小レポートの記述内容をもとに講義メモを LACS にアップし、限定的ながら双方向性を持たす。          資料の提示、課題の提出などはLACSを多用する。</p>					

### (2) 学修の評価

到達目標	<p>①家計・企業の行動原理および市場のしくみを説明できる：科目「経済活動と社会」</p> <p>②教養教育の全体目標を理解し、各科目の履修を通して関連目標の達成をめざす（全学モジュール共通目標）</p> <p>③以上を通して、物事を多面的に捉え広い視野から考える能力を身につける（全学モジュール共通目標）</p>
成績評価の方法	試験またはレポート等、講義中の課題、積極的な授業参加の程度

### (3) 授業の進行

<p>概要：現代社会の安定と繁栄は、限られた資源を有効に活用し生活水準を維持発展させる仕組みとしての経済活動のもとに成立している。こうした経済の仕組みを、その原理や制度、歴史的変遷、国や地域間の比較など幅広い観点から考察させる。</p>		
回	学習内容	授業方法（講義、グループワーク、プレゼンなど）
1	イントロダクション・小学校～高校で学んだ「経済活動と社会」にかかわる事項を思い出す	講義

2	ひとびとの経済活動と相互の関わり・・・生の記憶と認識の再構成	講義
3	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか (1)	講義
4	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか (2)	講義
5	歴史の中で経済活動と社会はどう認識されてきたのか (3)	講義
6	「生産」を深く考える	講義
7	「生産」を深く考えるⅡ	講義
8	「消費」を深く考える	講義
9	「消費」を深く考えるⅡ	講義
10	「取引」を深く考える	講義
11	「取引」を深く考えるⅡ	講義
12	「取引」を深く考えるⅢ	講義
13	「産業」について知るところを・・・	講義
14	ビジネス・エコノミクスへの接近	講義
15	自分の描くキャリアと経済活動	講義

#### (4) 授業の成果

全体の総括	1時限目のため、どうしても遅刻者に進行を妨げられやすかった。全員参加を目指すため、進行を巻き戻す必要があった。 理解度を小レポートで確認するが、時間的な問題があった。
今後の改善点	あまりないを考える。

#### (5) アクティブ・ラーニングの充実に向けた提案

ポイント提案	一クラス当たりの受講者数をもっと少なくすること。センター入試の得点などから、同様の学力水準の学生を集める。
参考になる資料	特になし

#### (別添資料)

提出された小レポートの例を示す。

